保育実習の体験と保育士のイメージの関連

原　　孝成

The Correlation between Field Practice and Ideal Nursery Teacher's Image

Takaaki HARA

Abstract

This study examined relationships between field practice and students' ideal nursery teacher's image. Using a single-adjective semantic differential technique, students' ideal nursery teacher's image was examined in 489 early childhood education and care department female students. 162 students who experienced field practice equal to or more than 30 day were called Field Practice Experience Group A 166 students who experienced a 10 day field practice were called Field Practice Experience Group B 161 students who didn't experience a practice were called No Field Practice Experience Group. As a result of factor analysis, the three types of factors "Nurturing", "Mental Strength" and "Moderately" were extracted. Two results were seen: 1)"Nurturing" factor was most important for a nursery teacher to have among these early childhood education and care department students, and 2) field practice experience makes these students' ideal nursery teacher's image clearer.

Key words: single-adjective semantic differential technique, ideal nursery teacher's image, field practice

問　　題

将来特定の職業に就職していくためには，その職業に対する，職業観や仕事上の役割意識などその職業に対するイメージを明確にし，獲得していく必要がある。保育士に関しても同様であり，保育者養成校の学生にとっては，保育士に関わる仕事観や子ども観，役割意識などが基盤として形成される保育士のイメージとしてどのようなイメージを形成するかによって，保育士への職業選択をしていくかどうか影響していくと考えられる。例えば，子どものイメージに関する研究としては，保育者養成校の学生の自己評価と子どものイメージを検討した芝崎（2003），学生が持つ児童観と保育者や子どものイメージを調査した平山・塩谷（1996），平山・平山（1997）などがある。柴崎（2003）は，自己評価の低い学生は子どもに対するイメージがネガティブになりやすいことを示している。平山ら（1996,1997）は，学生が持つ白紙説－質素説，性善説－性悪説といった児童観が保育や子どもに対するイメージと関連していることを示唆している。また，自由記述によって学生もつ保育者像を調査した，緑間・松本・宮崎（1996）は，保育者養成校の学生が保育者を「あたたかく」「明るい」人物であり，「良い保育者」を「子どもの側に立てる人」，「悪い保育者」を「押しつける人」と捉えていること，「なりたい保育者」の役割として保育者としての知識・技能に加えて個人の人間性を重視していることを示唆している。ただし，この調査は自由記述されたものをカテゴリーに分類し集計するという方法をとったためか，学年間による明確に違いなどは示されていなかった。これらの研究を概観していくと，保育者養成校の学生が持つ子どもや保育者のイメージが，指導計画の作成などの保育実践や自分が目指す保育のあり方，ひいては保育者に「なる」「ならない」といった職業選択などに影響していくことが予測される。

このような子どもや保育者に関わるイメージの形成には，保育者を目指す学生であるという個人的な要因とともに，保育実習という体験が重要になると思われる。例えば，保育者としての信念に関して，三木・桜井（1998）は，実習体験が学生の保育者効力感（「保育場面において子どもの発達に望ましい

変化をもたらすことができるであろう保育行為をとることができる信念」）に影響することを示している。また，学生の学習意欲について，長根（2002）は，「子どもに触れられる」体験が，保育科学生の学習に対する意欲に影響していることを示唆している。さらに，保育者としての意識について，吉岡（1998）は，保育所実習後の学生の意識が人間的に高まりを感じられるようになることを述べている。以上のように，「実習」が保育者養成のカリキュラムの中で重要な位置を占めていることに疑う余地は無いだろう。そこで，本研究では，同じ保育科の所属する学生で，保育実習を全く体験していない学生，保育所における保育実習を10日間体験した後の学生，保育所および児童福祉施設，病院においてのべ30日以上の保育実習体験のある学生のもつ，保育士のイメージの違いを検討する。

本研究では，学生が持つ保育士のイメージの測定方法として，SD法を用いる。SD法（semantic differential technique）は，Osgoodにより考案された，情緒的意味（affective meaning）の測定法である。SD法はイメージを想定する方法としてはたいへん有用な技法であるが，Osgoodの考案したSD法は，もともと両極性の形容詞尺度から構成されていた。実際，先に挙げた平山ら（1996,1997）や芝崎（2003）では両極性の形容詞尺度が用いられている。しかしながら，SD法には形容詞対の双方をそれぞれ単極性の尺度で構成する単独形容詞SD法も存在する。李（1990）が指摘しているように，「どちらの形容詞にもあてはまる」というような両極性の尺度上では中点に評定されるような内容を単極性の尺度ではより明確にすることができる。よって，本研究では，単独形容詞SD法をイメージの測定に用いることとする。また，形容詞の内容としては，保育士が人と関わる仕事であるという点を考慮し，林（1978），伊藤（1994）を参考に36の形容詞を使用した。

目的：単独形容詞SD法を用いて，保育実習を全く経験したことが無い学生，保育所での実習を10日間（保育実習I）体験した学生，保育所・児童福祉施設等で30日以上の実習（保育実習I,IIおよび施設実習I,II，病院実習）を体験した学生の持つ，保育士のイメージの構造を探索的に調査することを本研究の目的とする。

方　　法

調査対象：短期大学の保育科に所属する学生（全て女性）。

実習体験有A群：2002年12月の時点の2年生166名（平均年齢19.99歳，範囲19－24歳）。このうち保育実習I，施設実習I，保育実習IIもしくは施設実習IIのどちらか一方，及び病院実習の4つの保育士に関わる実習を体験したもの162名を分析対象とした。なお，このうちほとんどの学生が4週間の幼稚園での教育実習を体験していた。

実習体験有B群：2003年4月の時点の2年生176名（平均年齢19.12歳，範囲19－21歳）。このうち保育実習Iを体験したもの166名を分析対象とした。このうちほとんどの学生が，1週間の幼稚園での教育実習（観察実習）を体験していた。

実習体験無群：2003年7月の時点の1年生196名（平均年齢18.39歳，範囲18－25歳）。このうち短期大学入学以前に施設や保育所などでの実習体験などがあった学生を除く161名を分析対象とした。

なお，それぞれの実習の標準的な内容を説明すると以下のようになる。

保育実習I：1年次後期に保育所での10日間の実習。

施設実習I：2年次の夏休み児童福祉施設での10日間の実習。

保育所実習IIもしくは施設実習II：2年次の夏休みに10日間保育所もしくは児童福祉施設のどちらかで実習を行う。

病院実習：2年次の後期，小児病棟もしくは小児科の外来で3日間の実習を行う。これは小児保健実習の一環として実施されている。

調査内容：学生に対して保育士のイメージを36の形容詞で表す単独形容詞SD法の質問紙を実施した。評定は，「非常にそう思う」1点－「全くそう思わない」5点の5件法で行った。ここで使用した36の形容詞は，林（1978），伊藤（1994）を参考にした。

結　　果

全体的な保育士のイメージの特徴　学生が評定したイメージの36形容詞の学生全体の平均評定得点と標準偏差及び3つの群ごとの平均評定得点と標準偏差を表1に示す。

まず，全体的な学生の持つ保育士のイメージを明らかとするために，学生全体の36形容詞の各評定得点の全体平均点（M=2.2）とその標準偏差（SD=.58）を算出し，全体平均－標準偏差以下を高－保育士イ

メージ形容詞，全体平均＋標準偏差以上を低－保育士イメージ形容詞として選び出した。その結果，高－保育士イメージ形容詞として「2.明るい（M=1.4）」「4.責任感の強い（M=1.5）」「26.あたたかい（M=1.5）」「27.思いやりのある（M=1.5）」の4つ，低－保育士イメージ形容詞として「15.ひかえめな（M=3.6）」「25.静かな（M=3.7）」「28.男性的な（M=3.3）」「29.きびしい（M=2.9）」の4つの形容詞が抽出された。

実習体験有無と保育士イメージの関連　実習体験有A・実習体験有B・実習体験無の3群のイメージのプロフィールを図1に示す。

3つの群間で36形容詞の評定に違いがあるかどうかを検討するために，まず3（学生：実習体験有A，実習体験有B，実習体験無）×36（形容詞）の多変量分散分析（MANOVA）を行った。その結果有意な差（λ=0.722, $df1$=72, $df2$=902, p <.0001）が示された。そこで，36形容詞ごとに3群間のLSD法

表1　全学生及び3群の学生の36形容詞の平均評定得点

	全体		保育士	実習体験有A		実習体験有B		実習体験無		
イメージ形容詞	平均	SD	イメージ	平均	SD	平均	SD	平均	SD	
1 心の広い	1.9	0.75		1.9	0.72	2.0	0.77	2.0	0.75	
2 明るい	1.4	0.61	高	1.4	0.64	1.3	0.56	1.5	0.64	
3 さっぱりした	2.6	0.90		2.6	0.82	2.5	0.89	2.8	0.95	**
4 責任感の強い	1.5	0.70	高	1.5	0.67	1.5	0.68	1.6	0.75	
5 父親的な	3.1	0.93		3.1	0.89	3.2	0.95	3.2	0.95	
6 親しみやすい	1.7	0.78		1.7	0.76	1.7	0.82	1.7	0.76	
7 意欲的な	1.8	0.73		1.8	0.68	1.8	0.75	1.8	0.76	
8 我慢強い	2.1	0.88		2.0	0.82	2.1	0.84	2.2	0.97	
9 自信のある	2.4	0.91		2.3	0.82	2.2	0.84	2.6	1.02	**
10 まじめな	2.3	0.83		2.2	0.75	2.3	0.82	2.5	0.87	**
11 親切な	1.8	0.81		1.7	0.77	1.8	0.78	1.8	0.88	
12 女性的な	2.0	0.96		1.8	0.83	2.0	0.99	2.2	1.03	**
13 積極的な	1.8	0.80		1.8	0.79	1.7	0.72	1.9	0.86	
14 感じのよい	1.8	0.87		1.8	0.83	1.8	0.89	1.9	0.87	
15 ひかえめな	3.6	0.81	低	3.4	0.81	3.7	0.80	3.7	0.81	**
16 信頼できる	1.8	0.82		1.7	0.76	1.8	0.85	1.8	0.83	
17 ユーモアのある	2.0	0.84		1.9	0.81	1.9	0.84	2.1	0.85	**
18 すなおな	2.3	0.90		2.2	0.80	2.1	0.85	2.5	0.99	**
19 知的な	2.6	0.91		2.5	0.86	2.6	0.95	2.8	0.90	**
20 受容的な	2.1	0.91		1.9	0.81	2.2	0.92	2.4	0.94	**
21 落ち着いた	2.4	0.98		2.2	0.88	2.4	0.98	2.7	1.04	**
22 誠実な	2.2	0.82		2.0	0.73	2.1	0.76	2.5	0.89	**
23 たくましい	1.8	0.85		1.9	0.83	1.7	0.82	1.9	0.90	
24 意志が強い	2.1	0.88		2.2	0.80	2.0	0.86	2.2	0.98	
25 静かな	3.7	0.79	低	3.6	0.77	3.7	0.77	3.8	0.81	
26 あたたかい	1.5	0.70	高	1.6	0.69	1.5	0.71	1.5	0.71	
27 思いやりのある	1.5	0.70	高	1.6	0.71	1.6	0.74	1.5	0.63	
28 男性的な	3.3	0.85	低	3.3	0.81	3.2	0.87	3.4	0.85	
29 きびしい	2.9	0.88	低	2.9	0.83	2.8	0.88	3.0	0.93	
30 安定した	2.6	0.96		2.4	0.87	2.5	1.01	2.8	0.98	**
31 ゆったりした	2.5	0.97		2.4	0.97	2.5	0.98	2.7	0.94	**
32 母親的な	1.6	0.74		1.6	0.72	1.6	0.70	1.7	0.79	
33 やわらかい	1.8	0.82		1.8	0.75	1.8	0.86	1.9	0.84	
34 しっかりした	1.8	0.75		1.9	0.78	1.7	0.74	1.8	0.73	
35 気長な	2.3	0.92		2.2	0.86	2.3	0.98	2.4	0.90	
36 情熱的な	2.3	0.90		2.3	0.84	2.3	0.92	2.4	0.92	
全体平均	2.2									
SD	0.58									

註1）イメージの評定は1.たいへんそう思う-5.全くそう思わない
註2）保育士イメージ高<=全体平均-SD
註3）保育士イメージ低>=全体平均+SD
註4）**は，3つの群間の分散分析の結果が有意であったものps<.001

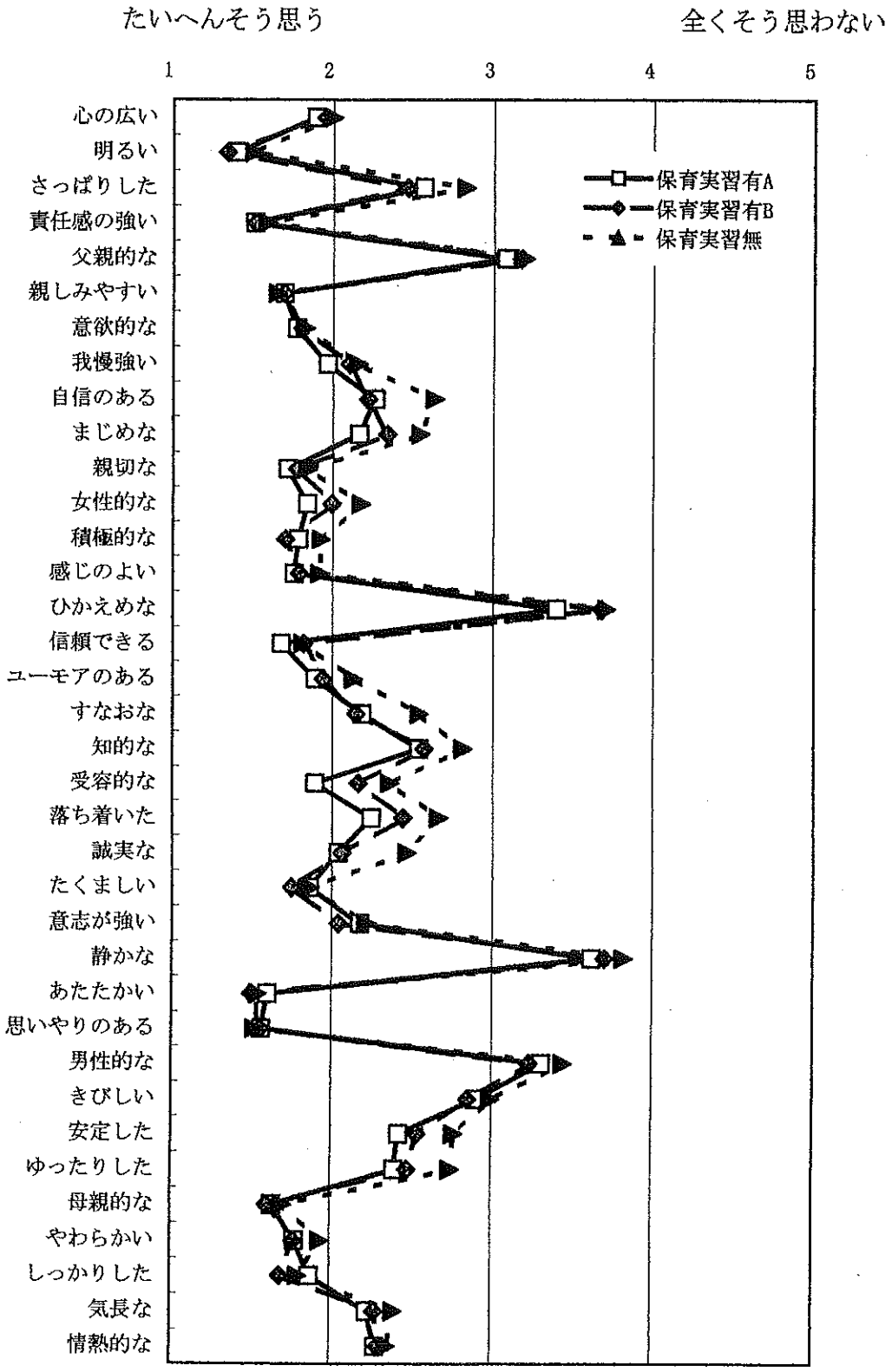

図1　保育士のイメージのプロフィール

表2　保育士のイメージの因子分析結果（最尤法斜交回転）

	F1	F2	F3	多重R^2
F1 養護的関わりの因子				
26 あたたかい	0.794	0.059	-0.016	0.670
27 思いやりのある	0.791	0.020	0.057	0.663
14 感じのよい	0.695	0.155	0.112	0.564
6 親しみやすい	0.682	0.070	0.068	0.513
16 信頼できる	0.675	0.181	0.166	0.534
11 親切な	0.671	0.160	0.172	0.554
33 やわらかい	0.662	0.110	0.186	0.565
1 心の広い	0.603	0.089	0.089	0.433
18 すなおな	0.594	0.245	0.342	0.552
2 明るい	0.560	0.176	-0.083	0.411
17 ユーモアのある	0.553	0.319	0.076	0.454
7 意欲的な	0.518	0.353	0.045	0.469
32 母親的な	0.507	0.138	0.099	0.483
35 気長な	0.477	0.309	0.197	0.444
22 誠実な	0.462	0.343	0.283	0.502
F2 精神的強さの因子				
24 意志が強い	0.217	0.692	-0.030	0.485
23 たくましい	0.211	0.610	-0.168	0.435
9 自信のある	0.167	0.565	0.111	0.414
34 しっかりした	0.436	0.553	-0.049	0.516
8 我慢強い	0.207	0.507	0.111	0.341
13 積極的な	0.454	0.485	-0.054	0.473
19 知的な	0.312	0.470	0.293	0.462
F3 ひかえめさの因子				
15 ひかえめな	0.093	-0.003	0.661	0.425
25 静かな	-0.017	0.114	0.625	0.411
21 落ち着いた	0.316	0.340	0.454	0.483
31 ゆったりした	0.400	0.070	0.369	0.424
10 まじめな	0.302	0.414	0.330	0.438
30 安定した	0.369	0.360	0.271	0.427
20 受容的な	0.339	0.257	0.255	0.299
5 父親的な	0.100	0.357	0.235	0.309
12 女性的な	0.432	0.126	0.229	0.414
28 男性的な	-0.137	0.410	0.173	0.342
29 きびしい	-0.291	0.431	0.133	0.323
3 さっぱりした	0.079	0.411	0.103	0.236
36 情熱的な	0.384	0.457	0.101	0.453
4 責任感の強い	0.426	0.262	-0.014	0.334
固有値	10.383	2.325	1.458	
寄与率(%)	28.842	6.457	4.051	
累積寄与率(%)	28.842	35.299	39.350	

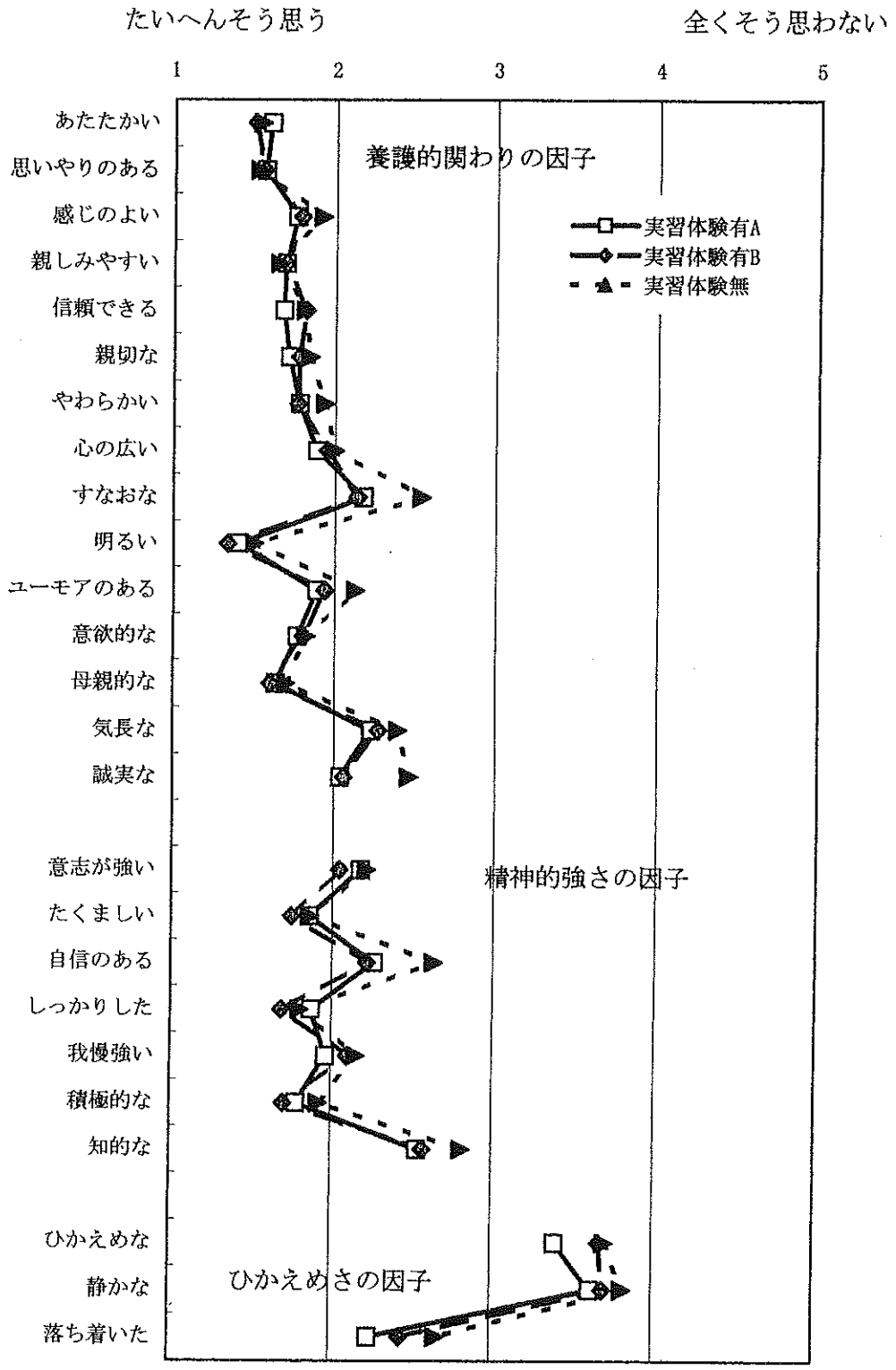

図2　因子ごとの保育士のイメージプロフィール

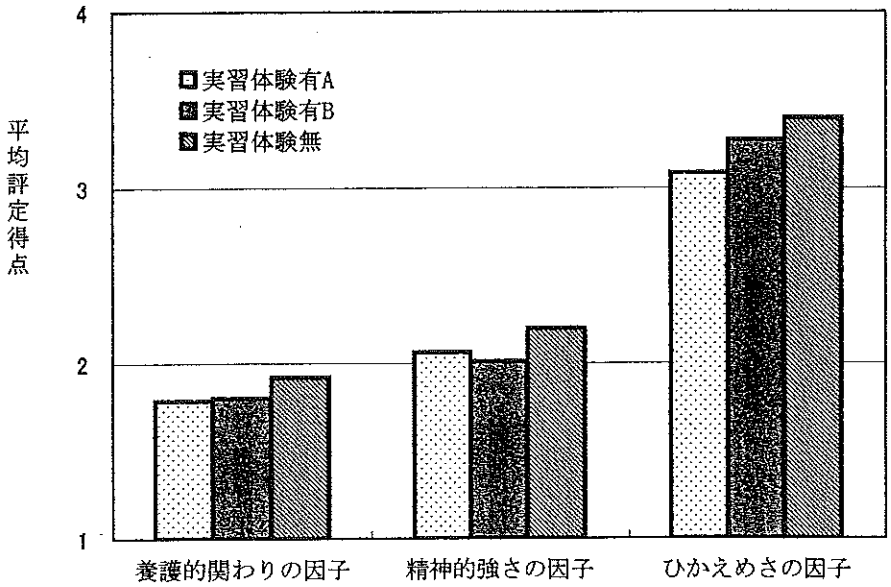

図３　実習体験有Ａ・Ｂ、実験体験無の３つの因子の評定得点

による下位検定を行った（危険率は全てps <.001以下）。その結果，「3.さっぱりした」，「9.自信のある」，「10.まじめな」，「12.女性的な」，「15.ひかえめな」，「17.ユーモアのある」，「18.すなおな」，「19.知的な」，「20.受容的な」，「21.落ち着いた」，「22.誠実な」，「30.安定した」，「31.ゆったりした」で有意な差がみられた。はじめに，「20.受容的な」のイメージでは実習体験無よりも実習体験有Ｂでよりそのイメージが強く更に実習体験有Ａ群で更にそのイメージが強くなることが示された。次に，「15.ひかえめな」のイメージでは平均評定得点を考慮すると，実習体験有Ａよりも実習体験無と実習体験有Ｂで「ひかえめとはいえない」イメージが強いことが示された。更に，「10.まじめな」，「12.女性的な」，「17.ユーモアのある」，「19.知的な」，「21.落ち着いた」，「30.安定した」，「31.ゆったりした」のイメージでは実習体験無よりも実習体験有Ａでそのイメージが強いことが示された。最期に，「3.さっぱりした」，「9.自信のある」，「18.すなおな」，「22.誠実な」では実習体験無よりも実習体験有Ａと実習体験有Ｂでそのイメージが強いことが示された。

保育士のイメージの構造と実習体験の関連　保育士のイメージ構造を明らかにするために評定得点を元に，最尤因子法による因子分析を行った。その結果，３つの因子を抽出した。斜交回転後の因子分析の結果を表２に示す。

第１因子は，「あたたかい」「思いやりのある」「感じのよい」「親しみやすい」「信頼できる」という項目を含んでいたので「**養護的関わりの因子**」と命名した。第２因子は，「意志が強い」「たくましい」「自信のある」「しっかりした」という項目を含んでいたので「**精神的強さの因子**」と命名した。第3因子は，「ひかえめな」「静かな」「落ち着いた」という項目を含んでいたので「**ひかえめさの因子**」と命名した。３つの因子ごとのイメージのプロフィールを図２に示す。

このイメージ構造と実習体験有無の関連を検討するために，「養護的関わりの因子」に含まれる15項目，「精神的強さの因子」に含まれる７項目，「ひかえめさの因子」に含まれる３項目の平均をそれぞれ因子得点とし，３（実習体験：実習体験有Ａ・実習体験有Ｂ・実習体験無）×３（因子：「養護的関わりの因子」・「精神的強さの因子」・「ひかえめさの因子」）の分散分析を行った。３群間の３つの因子得点の結果を図３に示す。その結果，実習体験の主効果（F (2,486)=7.90, p <.001）と因子の主効果（F (2,972)=1348.20, p <.001）及び実習体験×因子の交互作用効果（F (4,972)=3.63, p <.001）が有意であった。交互作用効果の下位検定としてLSD法による多重比較（有意水準は全てps <.001）を行ったところ，実習体験無は実習体験有Ａよりも３つの因子全てでそのイメージが低いことが示された。また，「ひかえめさの因子」ではひかえめではない

イメージが，実習体験有Ａよりも実習体験有Ｂで強く，さらに実習体験無でさらに強いことが示された。また，３群とも保育士のイメージとしては「養護的関わり」のイメージが最も強く，続いて「精神的強さ」のイメージが強く，これと比較すると「ひかえめさ」のイメージはそれほど無いことが示された。

考　　察

保育科学生の持つ全体的な保育士のイメージの特徴としては，「あたたかく」「思いやりがある」「きびしいとはいえない」といいった面や「明るく」「ひかえめとはいえない」「静かとはいえない」といった面が特徴としてあげられた。この点は，緑間・松本・宮崎（1996）の自由記述による調査でも，保育士を「あたたかく」「明るい」人と捉えていた調査結果と一致している。これに加えて，保育科の学生が「責任感が強い」を保育士のイメージの特徴として捉えていたことは，やはり保育という子どもに関わる仕事の重要性を意識しているためと思われる。ただし，本研究で「男性的とはいえない」ことを学生が保育士のイメージとして捉えていたことが示されたが，本調査の対象は全て女性であったため，この結果が保育士のイメージとして普遍的な意味を持つかどうかについては，明らかではない。近年全国的に，男性保育士の数も徐々にではあるが増加し，保育者養成校に入学してくる男子学生の数も増加しているなか，この点に関しては今後の検討する必要があると思われる。

保育士のイメージ構造としては，「養護的関わりの因子」「精神的強さの因子」「ひかえめさ因子」という３つの因子から成り立っていることが示された。

この中で，全ての群で「養護的関わりの因子」のイメージが最も強かったのは，やはり保育という仕事が子どもに関わる仕事であるということを示しているのであろう。これに対して，「ひかえめさの因子」はやはり保育士のイメージとしては特徴的とはいえない側面であるといえる。しかしながら，施設実習や病院実習などを含む30日以上の保育実習を体験した学生は「ひかえめとはいえない」という保育士のイメージが弱くなっていくことが示された。このことは，実習を通して「ひかえめさ」という側面が強調されているのかもしれない。このような違いが，実習におけるどのような要因と関わっているのかは，今後の検討を要する。

最期に，３つの因子ともに実習経験無の群では得点が高く（ここでは，イメージが弱いことになるが），３つの群とも３つの因子の関係は良く似ているものの，実習経験した群の方がよりそのイメージが明確になっていることがうかがえる。

謝　　辞

本研究のデータ収集に当たっては，西南女学院短期大学保育科教授三村保子先生と，同保育科学生，枌理恵さん，石和田祐子さん，城野朋子さん，近藤麻美さんに協力を得ました。この場をかりてお礼申し上げます。

引 用 文 献

林 文俊：対人認知の基本次元についての一考察　名古屋大学教育学部紀要（教育心理学科），25，233-247（1991）

平山祐一郎・平山祥子：保育職を希望する学生の児童観と子どもに対するイメージの関連性について　清和女子短期大学紀要，26，13-18（1997）

平山祐一郎・塩谷祥子：児童教育専攻者の児童観および保育に関するイメージについて　清和女子短期大学紀要，25，97-102（1996）

伊藤美奈子：学校カウンセリングに関する探索的研究－教師とカウンセラーの役割兼務と連携をめぐって－　教育心理学研究，42，298-305（1994）

緑間 科・松本有代・宮崎清孝：保育者養成校の学生が抱く保育者像の調査　大妻女子大学紀要－家政系－，32，363-373（1996）

三木知子・桜井茂男：保育専攻短大生の保育者効力感に及ぼす教育実習の影響　教育心理学研究，46，203-211（1998）

長根利紀代：保育科学生の学習効果と意欲－教育実習事前指導における課題実習を通して－　名古屋柳城短期大学研究紀要，24，101-115（2002）

李 敏子：生，死，言葉，身体のイメージ－青年を対象として－　心理学研究，61，79-86（1990）

芝崎良典：保育者養成課程に在籍する学生の自己評価と子どものイメージの関連　幼年教研究年報，25，21-26（2003）

吉岡眞知子：保育所実習を終えた学生の「保育所保育」に対する意識の一考察　東大阪短期大学研究紀要，24，83-92（1998）